

昭和館報

平成24年度

口 絵			
ごあいさつ	1	(2) データベース運用管理	16
フロア構成	2	(3) ホームページ運用管理	16
年間主要行事	3	2 オーラルヒストリーの制作	17
平成24年度事業概要		3 海外資料調査の実施	17
Ⅰ 展示事業		Ⅳ 啓発広報等事業	
1 常設展示	4	1 広報活動	18
(1) 常設展示の概要	4	(1) 広報資料の作成及び発送	18
(2) 展示替え工事	4	(2) 広報と掲示及び掲載	18
(3) 展示資料の入れ替え	5	(3) 子ども霞ヶ関見学デー	18
2 巡回特別企画展の開催	5	(4) 第11回昭和館見学作文コンクール	19
(1) 第21回巡回特別企画展	5	(5) 第5回昭和館高校生ポスター	19
伝えたい「戦中・戦後」の暮らし		コンクール	19
(2) 第22回巡回特別企画展	6	2 『昭和の暮らし研究』の刊行	20
伝えたい「戦中・戦後」の暮らし		3 展示資料の貸出	21
3 貸出キット	6	4 昭和館運営専門委員会の開催	22
4 実物資料の収集と保存	7	5 昭和館運営有識者会議の開催	22
(1) 実物資料の収集	7	6 インターンシップ	23
(2) 実物資料の保存と補修	7	7 小・中学生用展示案内	
Ⅱ 図書映像資料等閲覧事業	8	DVDの配布	23
1 図書文献関係	8	8 関係施設連携会議の開催	24
(1) 運用管理	8	Ⅴ 特別企画展等の開催及び概要	
① 閲覧室及び書庫の管理	8	1 「帰還への想い～銃後の願いと	
② レファレンス・サービス		千人針～」	25
(参考調査業務)	8	2 「生誕100周年・没後30周年記念	
③ 利用ガイドの発行	8	中原淳一の生きた戦中・戦後	
④ 展示関連図書の公開と		～少女像にこめた夢と憧れ～」	26
参考図書リストの配布、		3 「昭和の日」記念イベントの開催	28
読書案内	8	4 「東京オリンピック開催年の日本	
⑤ ホームページ	9	一変わりゆく昭和の情景」	28
⑥ 蔵書点検	9	5 「桜 さくら さくら」	29
⑦ 利用状況	9	6 紙芝居定期上演会	29
(2) データ管理	11	7 資料公開コーナー	30
① 収蔵図書のデータ管理	11	参 考	
② 目次データ入力	11	1 平成24年度利用者実績	31
(3) 保存管理	11	2 平成24年度常設展示室入場者数	31
(4) 業務研修	11	3 来館団体御芳名	32
2 映像・音響関係	12	4 第11回昭和館見学作文コンクール	
3 ニュースシアター	12	厚生労働大臣賞受賞作品	33
4 収蔵資料	13	5 第5回昭和館高校生ポスター	
(1) 図書資料の収蔵状況	13	コンクール入賞作品	34
(2) 映像・音響資料の収蔵状況	14	6 施設概要	35
Ⅲ 関連情報提供事業		7 平成24年度寄贈者御芳名	37
1 運用管理	15		
(1) システム運用管理	15		

口 絵
外観写真





7階 常設展示室「銃後の備えと空襲」



6階 常設展示室「移りゆく世相」



5階 映像・音響室



4階 図書室



1階 昭和館懷かしのニュースシアター



紙芝居定期上演会
(毎月第4週日曜日)



特別企画展
平成24年7月28日～8月26日
「帰還への想い～銃後の願いと千人針～」



特別企画展
平成24年7月30日～8月20日
「生誕100周年・没後30周年記念
中原淳一の生きた戦中・戦後～少女像にこめた夢と憧れ～」



巡回特別企画展（富山展）
平成24年9月22日～9月30日
伝えたい「戦中・戦後」の暮らし
富山県民会館 地下展示室



巡回特別企画展（京都展）
平成24年11月10日～11月18日
伝えたい「戦中・戦後」の暮らし
京都府立総合社会福祉会館「ハートピア京都」3階大会議室

ご あ い さ つ



昭和館では、戦没者遺族の援護施策の一環として、国民が経験した戦中・戦後（昭和10年頃から昭和30年頃まで）の生活に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示して、国民生活上の労苦を後世代の人々に伝える国立の施設です。平成11年に設立以降、入館者総数も350万人（平成25年3月末現在）を超えるに至りました。これも、ひとえに関係各位の御支援・御協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。ここに、平成24年度の活動状況を取りまとめましたので御高覧いただければ幸いです。

主な事業として、常設展示室、映像音響室、図書室、昭和館懐かしのニューシアターにより、必要な情報提供等を行ったほか、夏と春の特別企画展、地方での巡回特別企画展、2階広場での写真展、紙芝居の定期上演会、子供霞ヶ関見学デー、小・中学生作文コンクール、高校生ポスターコンクール、紀要「昭和のくらし研究」発刊、オーラルヒストリー（体験証言）制作、貸し出しキッドの充実などに取り組んで参りました。

また、平成25年1月には「常設展示室」のリニューアルを行い、「玉音放送」をラジオから聴けるコーナーや、手押し井戸ポンプを使った水くみ体験ができるコーナーを設けるなどの充実を図りました。

なお、「強制抑留の実態調査等に関する基本的な方針」（平成23年8月閣議決定）に盛り込まれた「戦中・戦後の国民生活上の労苦に関する資料の収集・展示を行う昭和館等の施設間の適正な連携を図る。」に基づき関係施設連携会議を平成24年度に開催し、しょうけい館・平和祈念展示資料館との更なる連携を進めていくこととしています。

終わりに、今後とも後世代、特に若い世代に戦中・戦後の労苦を継承していくため、各種資料の収集充実に努め、様々な観点からの企画展の開催と種々な情報提供等が出来るよう、魅力ある運営に励んで参りますので、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年10月

昭和館 館長 羽毛田 信吾

フロア構成

常設展示室（入口）

7階

常設展示室（出口）

6階

映像・音響室

5階

図書室

4階

研修室・会議室

3階

広場

2階

受付・総合案内・ニュースシアター

1階

資料収蔵室

地下1階

設備管理室

地下2階

年間主要行事

平成24年	
3月17日～ 4月15日	写真展を開催「絵はがきと写真に見る桜—東京の桜の名所—」
3月17日～ 5月13日	特別企画展を開催「昭和の紙芝居～戦中・戦後の娯楽と教育～」
4月28日～ 5月 4日	「昭和の日」記念イベントを開催
5月27日～	紙芝居定期上演会(隔奇数月第4日曜日に開催)
6月21日	平成24年度第1回昭和館運営専門委員会を開催
6月25日～ 6月27日	常設展示室の資料交換工事(休室)
7月28日～ 8月26日	特別企画展を開催 「帰還への想い～銃後の願いと千人針～」
9月22日～ 9月30日	巡回特別企画展を開催(富山県にて) 「伝えたい『戦中・戦後』の暮らし」
10月 6日～12月24日	写真展を開催 「東京オリンピック開催年の日本—変わりゆく昭和の情景—」
11月 10日～11月18日	巡回特別企画展を開催(京都府にて) 「伝えたい『戦中・戦後』の暮らし」
平成25年	
1月 5日～ 1月15日	常設展示室の展示替え工事(休室)
2月22日	平成24年度第2回昭和館運営専門委員会を開催
3月 1日～ 3月 7日	映像・音響室の資料整理を実施(休室)
3月 1日～ 3月14日	図書室の資料整理を実施(休室)
3月 1日	紀要『昭和の暮らし研究』(第11号)を刊行
3月12日	第12回昭和館運営有識者会議を開催
3月17日～ 5月13日	特別企画展を開催 「生誕100周年・没後30周年記念 中原淳一の生きた戦中・戦後～少女像にこめた 夢と憧れ～」
3月20日～ 4月14日	写真展を開催「桜 さくら サクラ」

平成24年度事業概要

I 展示事業

展示事業では、戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える実物資料の常設展示を行うとともに、関連する資料の収集、保存、管理を行っている。

また、特別企画展や巡回特別企画展等の事業を開催した。

(特別企画展等の内容は別項Vに掲載)

1 常設展示

(1) 常設展示の概要

7階及び6階の常設展示室においては、戦没者遺族をはじめとする多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えるための展示を行っている。

7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年(1935)頃から、昭和20年(1945)8月15日までの戦中の暮らしを、6階では終戦から『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和30年(1955)頃までの戦後の暮らしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

(2) 展示替え工事

平成25年1月5日(土)から15日(火)までの16日間、常設展示室を休室して展示替え工事を行った。

なお、実施した展示替えの概要は、次表の通りである。

常設展示室展示替え一覧

展示場所	展示替え前	展示替え後
昭和20年 8月15日	音声ガイドでのみ 「玉音放送」が聴ける。	ラジオから音声が流れる仕組みを導入した。 「玉音放送」についての説明を追加した。
6階・ 階段下	「戦火を越えて」において 戦中・戦後・現代の写真を 紹介	「終戦直後の日本」として、終戦直後の様子を1分から2分程度の映像で紹介。テーマ「バラック生活」「買い出し列車」「授業風景」「引揚げ」「DDT散布」「焼け跡」「闇市」「駅頭・新宿駅」

体験ひろば	「語り伝えたい思い」においてオーラルヒストリーを上映。	「昔の人々のくらしと水」として体験型展示として、井戸ポンプの水くみ、バケツ持ち上げ体験を導入した。
体験ひろば	「調べてみよう」において収蔵資料を紹介。	①収蔵資料の紹介：「配給絵巻日記」「新聞」「伝単」「日記」を閲覧できるようにした。 ②昭和館収蔵資料データベース：「はがき」「手紙」「ポスター」「千人針」「紙芝居」「日の丸寄せ書き」を検索できるようにした。
6階立柱	遺骨収容、戦没者概見図、慰霊事業	海外に残された邦人の帰国受け入れ、遺骨の帰還、地域別戦没者概見図、戦没者の慰霊を紹介した。
6階出口	実物資料・雑誌・写真による昭和10～30年の年表。	年表を昭和40年まで延長した。 実物資料・雑誌・写真を追加した。

(3) 展示資料の入れ替え

長期展示による資料の劣化を避け、また、できるだけ多くの方々からの寄贈資料を紹介するため例年2回、1月と6月に展示資料の入れ替えを行っている。平成24年度は6月25日（月）から27日（水）までの3日間、常設展示室を休室して資料交換と清掃作業を行った。1月は、展示替えに合わせて実施した。

2 巡回特別企画展の開催

遠方の都道府県に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、各地で年2回の巡回特別企画展を開催している。

平成24年度は、次の通り実施した。

(1) 第21回巡回特別企画展 伝えたい「戦中・戦後」のくらし（富山展）

開催期間：	平成24年9月22日（土）～9月30日（日）
会場：	富山県民会館 地下展示室
共催：	北日本新聞社
協賛：	富山県遺族会
後援：	富山県 富山県教育委員会 富山市 富山市教育委員会 NHK 富山放送局 北日本放送 富山テレビ放送 チューリップテレビ ケーブルテレビ富山 富山エフエム放送 富山シティエフエム
内容：	富山県関連の資料を中心に、戦中・戦後の厳しい時代を生き抜いた人々が綴った手記や、その姿を記録した写真などを通し、当時の世相や苦難の多かった暮らしを紹介した。
来場者数：	3,280人（約364人／1日）

(2) 第22回巡回特別企画展 伝えたい「戦中・戦後」の暮らし (京都展)

開催期間：平成24年11月10日(土)～11月18日(日)
会場：京都府立総合社会福祉会館「ハートピア京都」3階大会議室
協賛：日本遺族会第3ブロック(京都府遺族会ほか)
後援：京都府 京都府教育委員会 京都市 京都市教育委員会
京都新聞社 朝日新聞京都総局 毎日新聞京都支局
読売新聞京都総局 日本経済新聞社京都支社
産経新聞社京都総局 NHK京都放送局 KBS京都
洛西ケーブルビジョン エフエム京都 京都リビングエフエム
内容：富山県で開催した巡回展の内容を、京都府関連の資料に入れ替え展示した。
来場者数：2,475人(約275人/1日)



富山展



京都展

3 貸出キット

都道府県遺族会事務局や全国の各教育委員会のほか、「昭和館だより」の発行に併せ全国約16,000の小・中学校、高等学校にポスターとチラシを送付するなど広報に努め、更なる利用を呼びかけた。

なお、平成24年度の貸出状況は、次の通りである。

＜貸 出 先＞

(学校) 20カ所

磐田市立田原小学校／札幌市立北野小学校／千代田区立番町小学校／
目黒区立八雲小学校／江戸川区立枝川小学校／千葉聖心高等学校／
銚子市立椎柴小学校／市原市立辰巳台東小学校／町田市立鶴川第三小学校／
仙台市立遠見塚小学校／横浜市立南山田小学校／明治学園小学校／
綾瀬市立綾北小学校／仙台市立沖野東小学校／富津市立大貫小学校／
稲城市立向陽台小学校／練馬区立中村西小学校／市原市立白幡小学校／
川崎市立南河原中学校

オーラルヒストリー（証言映像）板橋区立北野小学校

(地方自治体) 15カ所

大田区立六郷図書館／赤穂市行政課／大田区立下丸子図書館／東大阪市／
豊橋市平和教育研究委員会／財団法人松原市文化情報振興事業団／
厚木市／東村山市役所市民部生活文化課／狛江市／相馬市／
邑楽町職員労働組合青年婦人部平和実行委員会／海老名市／柏市／
千代田区国際平和・男女平等人権課／多摩市役所くらしと文化部

(一般団体) 7カ所

相模原市戦没者遺族会／コープかながわ／(宗)雲祥寺／徳島県遺族会／
株式会社三浦海業公社／愛川町遺族会／浜松市雄踏町遺族会

4 実物資料の収集と保存

(1) 実物資料の収集

平成24年度における実物資料の収集は、主に個人からの寄贈によるもの約2,294点、購入によるもの約862点であった。

収蔵概数は次表の通りである（平成25年3月末現在）。

寄 贈 資 料	32,694点
購 入 資 料	10,762点
厚生労働省からの無償貸付資料	3,200点
合 計	46,656点

(2) 実物資料の保存と補修

平成24年度末までに収集した実物資料は、全て燻蒸処理を行い、整理、分類した上、地下1階の資料収蔵室で保管を行った。

なお、破損・汚損の激しい紙製資料等約35点に対して補修を行った。

Ⅱ 図書映像資料等閲覧事業

1 図書文献関係

(1) 運用管理

① 閲覧室及び書庫の管理

4階図書室では、収集した戦中・戦後の国民生活に関する文献や戦争に関する基本図書等を閲覧に供している。

閲覧室には座席30席のほか、所蔵資料や『戦史叢書』等のデジタル情報及び『文藝春秋』等のデータベースを閲覧できる端末を4台、研究コーナーに2台設置し、タッチパネルとキーボードの両方で使えるようにしている。またCD-ROM検索用端末2台と国内の類似施設情報が閲覧できる端末1台を設置し、来館者の利用に供している。

蔵書の中でも利用頻度が高い基本資料や総合的な内容をもつ資料を中心に開架図書とし、利用状況に応じて随時調整している。

閉架図書は比較的利用頻度の高いものは4階書庫で、その他は地下書庫に収蔵している。劣化の激しい図書資料は保管庫で別置保存している。

また、閲覧室入口付近の展示ケースでは寄贈資料の一部を随時展示し紹介している。

② レファレンス・サービス（参考調査業務）

平成24年度のレファレンス・サービスは736件、1日平均2.5件で、特に4月から8月の年度前半が多かった。

書籍の所蔵確認だけでなく、考証に関するレファレンスも多く、調査に時間を要する場合が多かった。

レファレンスの内容は随時蓄積して、利用ガイドなどに反映させるよう努めている。

③ 利用ガイドの発行

レファレンスの内容に基づいて蔵書を紹介したり、利用・検索の方法を紹介する「ぶらりらいぶらりい」を毎月発行し希望者に配布している。

④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内

来館者が特別企画展などの展示内容についてより一層理解が深められるよう、展示内容に即した図書・雑誌を閲覧室内に展示し、気軽に手にして閲覧できるコーナーを設けている。

平成24年度は特別企画展「生誕100周年・没後30周年記念中原淳一の生きた戦中・戦後～少女像にこめた夢と憧れ～」及び資料公開コーナーでの展示内容などに関連した図書・雑誌の公開を行った。

また、7月12日（木）から9月9日（日）まで、小学校高学年から中学生を対象に、「夏休み宿題・研究資料リスト」を作成して希望者に配布するとともに、ホームページにも同リストを掲載し、利用の便をはかった。

今年度より、7月24日（火）から9月9日（日）まで、学童疎開を題材にした「夏休みワークシート（学習問題プリント）」を作成し、調べ学習の実践を推進した。

今年度も、図書室において大人から子どもまでを対象に「図書館員が読んだ本」、「書評から」と題して話題になった図書などを定期的に紹介してきた。

⑤ ホームページ

図書室では、図書データを毎月更新している。図書・雑誌資料の一部を紹介した「ちょこっと所蔵資料」や「ぶらりらいぶらりい」を定期的に更新しているほか、「本に関するお問い合わせ」では、利用者からのレファレンス等を随時受け付けた。「図書館員が読んだ本」などで紹介する本も併せてホームページでも掲載している。

蔵書検索ページではことば検索ができるようにしている。また、利用者からのレファレンス内容をQ&A形式で公開している。

また、資料募集のお知らせを掲載し、広く資料の寄贈を呼びかけている。

⑥ 蔵書点検

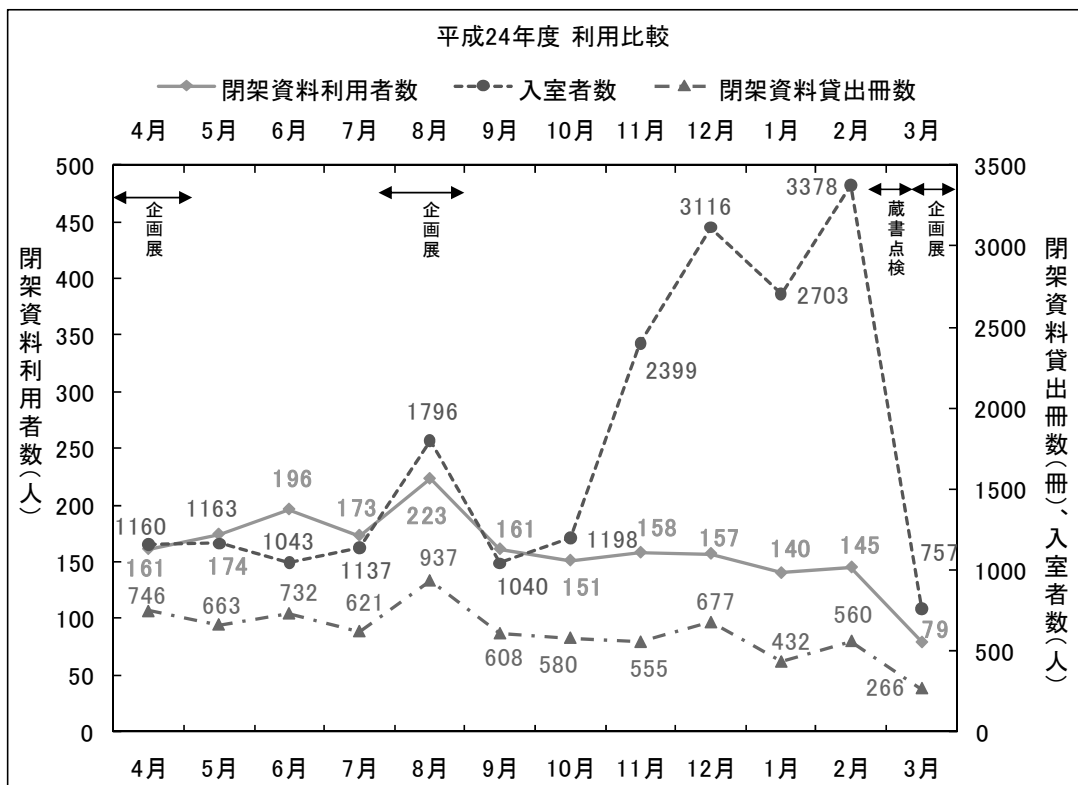
平成25年3月1日（金）から3月14日（木）までの14日間、図書室を休室にし、蔵書点検を実施した。

開架図書及び閉架雑誌を重点的に点検し、破損が著しい資料の修理や製本を行った。また、資料の増加にともない、蔵書の移動を行った。

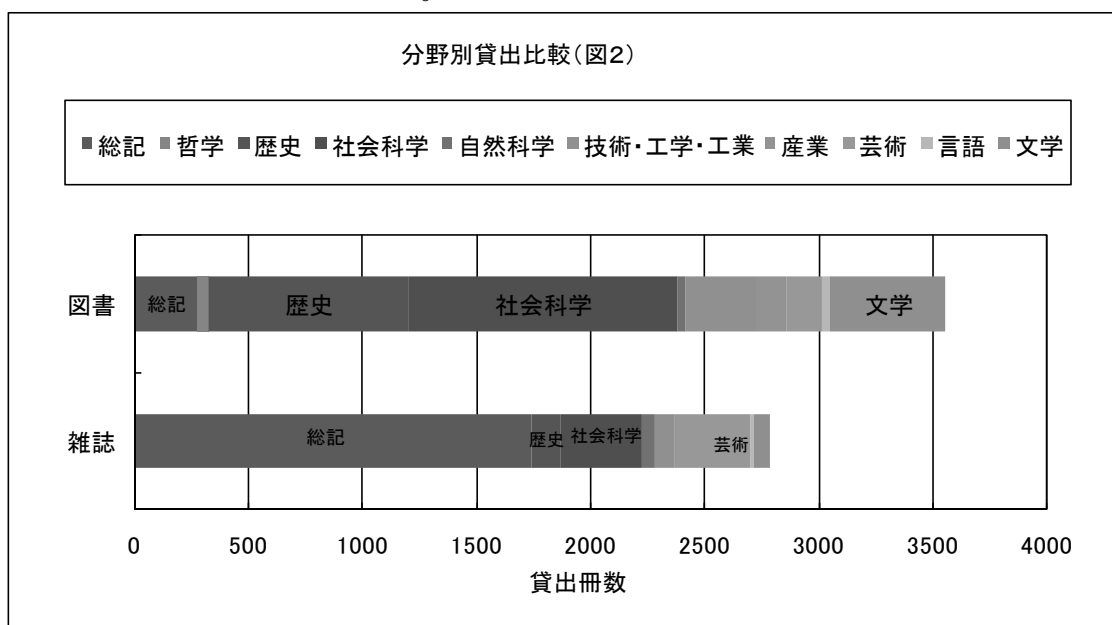
⑦ 利用状況

平成24年度の図書室入室者及び閉架利用状況(月ごとの変遷)は図1、閉架資料の分野別貸出状況は図2のとおりであった。

全体的には調査研究を目的とした利用者が増え、一人当たりの利用時間が長い傾向が続いている。



- ・ 図書室入室者数の1日平均は72名前後であった。
- ・ 図書室入室者数を月別で見ると、11月から2月にかけて小中学生の利用者が非常に多く、次いで夏期の特別企画展開催中の8月が多い。
- ・ 閉架資料の利用者数、利用冊数は、6月と8月が最も多く、次いで9月となっている。



※雑誌における「総記」は、週刊誌及び娯楽誌など一般誌のことをいう。

- ・ 図書の利用では社会科学と歴史分野の利用が多く、次いで文学となっている。
- ・ なお、社会科学分野の内訳としては、戦争関連の基本的資料、軍事・部隊史関係に加え、戦前から戦後の教科書類の利用が多かった。
- ・ 雑誌は例年どおり「総記」の利用が目立ち、少年少女、女性向け雑誌の利用が突出している。

(2) データ管理

① 収蔵図書のデータ管理

収蔵図書の書誌・所蔵データは随時点検、追加入力および修正作業を進めている。平成24年度は1,360冊の書誌データの入力と装備を行った。

② 目次データ入力

図書検索システムでは、図書の書誌・所蔵データの他に目次データも入力し、目次を含めた情報を検索対象として「ことば」検索に役立たせている。平成24年度は1,360件の目次データ入力を行った。

(3) 保存管理

資料の劣化に加え、閲覧やコピー利用による破損も増えつつあり、資料を補修しつつ利用の拡大を図っていくことが今後の課題である。平成24年度は60冊を製本及び合本し、202冊の破損本を修理した。

なお、劣化が激しく合本できない雑誌については中性紙保存箱で保存している。

(4) 業務研修

資料収集・整理・保存管理、情報提供など図書館を取り巻く問題は、常に変化している。図書館業界や類似施設についての状況を把握し、今後の図書室の運営に反映させていくことを目的に職員業務研修に参加した。平成24年度は、10月に日本図書館協会主催の第98回全国図書館大会(島根県松江市)などに出席し、業務の向上と他館との情報交換に努めた。

2 映像・音響関係

5階映像・音響室では、戦中・戦後の国民生活に関する映像・音響資料等を検索端末を通じて来館者に提供している。検索端末15台を設置し、うち2台は、多人数で同時に利用が可能な団体専用ブース、1台は当館類似施設の各ウェブサイトを紹介する専用端末、12台は映像・音響を検索する端末となっている。

上記の運用のほかに、パソコン操作が得意でない来館者も利用できることを目的に、「国民生活」「トピックス・著名人の顔」「スポーツ」「世間を騒がせた出来事」のニュース映画を簡単に閲覧できる検索コーナーやSPレコードの一部を試聴できるコーナーを設け、その順調な運用に努めている。

3 ニュースシアター

戦前から戦後のニュース映画を毎週4作品ずつ選定して毎日上映する「昭和館懐かしのニュースシアター」は、平成24年度において207作品を上映し、多くの来館者から好評を得ている。

4月28日(土)から5月4日(金)にかけて「昭和の日」の記念事業として、オーラルヒストリー「言問橋ことといばしのたもとで～狩野光男かのうてるおさんの体験談～」を通常の上映に加えて特別上映したほか、7月28日(土)から8月24日(金)にはオリンピック関係のニュースが含まれているニュース映画を特集して上映した。

4 収蔵資料

(1) 図書資料の収蔵状況

平成24年度は、前年度に引き続いて、戦中・戦後の国民生活に関する図書・雑誌をはじめ、写真集や少年少女雑誌・児童向け図書などを中心に収集した。収蔵概数は次表の通りである。(平成25年3月末現在)

国民生活関係図書	49,441冊
戦争に関する基本的図書	17,564冊
独自資料	35,980冊
その他基本図書	10,639冊
計	113,624冊

※平成24年度の主な受入資料の内訳

- | | |
|---|--------|
| ○ 国民生活関係 | 1,899冊 |
| ・ 当時刊行された雑誌類や生活体験記等
『兵庫県学童疎開関係史料集成』『国民服裁縫精義』『都市疎開と輸送』
『物資統制の真目的に就て』『「八紘」とは何か』等 | |
| ○ 戦争に関する基本的図書 | 496冊 |
| ・ 太平洋戦争関連の基本文献、欧米等外国の公刊戦史、部隊史、戦争関連の体験記等
『豊橋陸軍教導学校 歩兵学生第四中隊』『海軍経理学校 回顧二五年』
『日本の敗戦降伏裏面史』『如何にしてポツダム宣言を履行すべきか』等 | |
| ○ その他 | 415冊 |
| ・ 寄贈を受けた各類似施設の刊行物等
『国立歴史民俗博物館研究報告』『東京都江戸東京博物館紀要』等 | |
| ・ 定期購読誌
『現代用語の基礎知識』『中央公論』『サライ』『暮らしの手帖』等 | |
| ・ 辞典・目録等の参考図書
『日本統計年鑑』『図書館年鑑』等 | |

(2) 映像・音響資料の収蔵状況

利用者が検索システムを利用して閲覧できる映像・音響資料の収集を進めている。収蔵数は次表の通りである。(平成25年3月末現在)

<ul style="list-style-type: none"> ○ 動画資料 (ムービー) ・ 米国資料館から入手 1,034 作品 ・ 米国個人から入手 33 作品 ・ 豪州国資料館から入手 20 作品 ・ 英国から入手 5 作品 ・ 国内で入手 2,195 作品 合計 3,287 作品 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進駐軍撮影の日本人の記録 ○ 戦中・戦後の記録映画 ○ 戦中・戦後のニュース映画等 ○ 戦中・戦後の映画作品 	<p>終戦直後の映像の中には、カラー映像が含まれており、貴重な記録となっている。多くは情報検索システムで閲覧可能。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 静止画資料 (写真) ・ 米国資料館から入手 5,734 枚 ・ 米国個人から入手 2,281 枚 ・ 豪州国資料館から入手 241 枚 ・ 英国から入手 233 枚 ・ 国内で入手 36,867 枚 ・ 除籍 (写真集などの図書への移管のため) -901 枚 合計 44,455 枚 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進駐軍撮影の日本人の記録及び日本側撮影の報道写真等 ○ 土門拳氏等の著名な写真家の作品 ○ 昭和初期から戦後まで、多数の写真を撮影した石川光陽氏の写真等 	<p>これらの写真の多くはデジタル化し、情報検索システムで閲覧可能。未登録の資料も順次登録作業を進めている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 音響資料 (SPレコード) ・ 国内で入手 8,280 枚 ・ 寄託資料 約 35,000 枚 合計 約 43,280 枚 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 流行歌・演説・落語・浪曲といったあらゆる分野のSPレコード 	<p>情報検索システムで一部が鑑賞可能。順次登録作業を進めている。</p>

※平成24年度の主な受入資料の内訳

<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料の購入 ・ 記録映像 日本ニュース 	<p>34 作品</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料の寄贈 ・ 記録写真 ・ 記録フィルム ・ 音響資料 (SPレコード) 	<p>455 枚 25 作品 766 枚</p>

Ⅲ 関連情報提供事業

関連情報提供事業では、①昭和館が所蔵する図書資料、映像・音響資料、実物資料の情報、②雑誌、資料等をデータベース化した情報、③昭和館類似施設（国内137カ所）の基本情報を、それぞれ来館者が端末で利用できるよう提供している。

特に図書資料については千代田区内の関連施設・大学図書館とデータベースの提携を行っており横断検索が可能である。

1 運用管理

(1) システム運用管理

来館者に総合データベース（図書雑誌目次情報、静止画（写真）、動画、音響）、個別データベース（戦史叢書・陸海軍部隊略歴、デジタル雑誌など）及び類似施設等の関連情報を提供している。様々な条件から来館者が資料を検索し、閲覧できる方法を採用している。

システム稼働は安定しており、ハードウェア及びデータ損傷等の大きなトラブルはなかった。

平成24年度の各データベースへのアクセスカウントをまとめたのが次表である。アクセス件数は月平均約23,500件で、多くの来館者に利用されている。

	個別DB	写真	映像	音響	図書	雑誌	月別合計
平成24年4月	655	10,392	3,497	3,133	2,866	1,247	21,790
5月	385	10,980	3,231	3,731	2,609	1,329	22,265
6月	415	10,871	3,021	3,854	2,388	1,328	21,877
7月	451	9,342	3,363	3,338	2,666	1,266	20,426
8月	1,060	19,239	6,109	4,217	3,379	1,988	35,992
9月	455	11,501	3,816	2,341	2,416	2,060	22,589
10月	568	10,304	3,424	2,745	2,146	1,384	20,571
11月	1,445	11,325	4,529	5,434	2,623	1,231	26,587
12月	1,152	9,488	3,764	4,573	2,119	1,053	22,149
平成25年1月	939	10,210	4,147	4,946	2,730	1,046	24,018
2月	933	15,362	5,420	5,450	3,322	951	31,438
3月	433	4,444	2,625	2,455	1,030	795	11,782
合計	8,891	133,458	46,946	46,217	30,294	15,678	281,484

(2) データベース運用管理

来館者閲覧用及び記録資料のデジタル化を進め、以下のデータベースを稼働させている。館内で職員が常に情報追加・更新を行っている総合データベースと、特定の資料や雑誌をデジタル化した個別データベースに分けることができる。

- 収蔵図書・雑誌目次情報（総合データベース）
収蔵図書や雑誌の書名・著者名・雑誌名等書誌情報のほか、目次を全てテキスト入力しており、「目次情報」からも検索ができるようになっている。
- 収蔵映像・音響資料情報（総合データベース）
収蔵している静止画（写真）、動画及び音響資料（SPレコード）を、タイトルや作曲者名等の資料情報から検索でき、目的の映像または音楽を表示し、また視聴できるようにしている。
平成24年度は、昭和16年の厚生体育大会の様子、進駐軍として日本に滞在していた日系二世が昭和20年代に撮影した写真、出張や旅行先で撮影した昭和30年代後半の日本各地の様子を伝える写真および昭和10～30年代のニュース映画などを閲覧できるようにした。
- デジタル図書・デジタル雑誌（個別データベース）
昭和館で独自に開発したデータベースで、図書は『大衆文化事典』『日本生活図引』をそれぞれ検索でき、雑誌は『中央公論』『文藝春秋』『婦人公論』『写真週報』『時事年鑑』『放送ニュース解説』『改造』が統合され、データベース化されている（『改造』は継続中）。各資料は直接画面に内容が表示される。各雑誌間では横断検索が可能である。
- 戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム（個別データベース）
防衛庁防衛研究所戦史室編纂の『戦史叢書』、厚生省援護局編纂の「部隊略歴簿」「艦船行動調書」等をデータベース化し、横断検索を可能にして、利用の便を高めている。

(3) ホームページ運用管理

開館時から引き続き昭和館ホームページの定期更新を行っている。
なお、平成24年度のアクセス数は次のとおりであった。

- 「昭和館ホームページ」へのアクセス数

平成24年度	107,174件
平成24年度月間平均	8,931件
開館時からの累計	1,955,728件

内「キッズナビ」へのアクセス数

平成24年度	13,413件
平成24年度月間平均	1,118件
平成18年（導入時）からの累計	122,039件

2 オーラルヒストリーの制作

戦中から戦後にかけての労苦を体験された方々の証言を、永く後世に伝えるため、「オーラルヒストリー」の制作を昨年に引き続き実施した。

平成24年度は、「戦没者への遺族の想い」を中心に、勤労働員や空襲の体験など、9名の証言（9作品）の収録を行った。

「予科練への志願と入隊」	古賀衛さん	（東京都在住）
「父の無事を祈り、供え続けた陰膳」	大田純子さん	（東京都在住）
「学徒勤労働員と兄の戦死」	伊藤満理夫さん	（東京都在住）
「東京と長岡、二つの空襲」	矢口高子さん	（東京都在住）
「短い新婚生活」	宮垣文子さん	（熊本県在住）
「激戦地・硫黄島に夫を訪ねる」	小川綾子さん	（熊本県在住）
「家族全員が犠牲者」	村田孝子さん	（熊本県在住）
「父の戦死公報、それでも無事を・・・」	笠原慶喜さん	（熊本県在住）
「かけがえのない命」	中田芳伸さん	（熊本県在住）

3 海外資料調査の実施

平成24年度には豪州における調査を実施した。

オーストラリア戦争記念館・オーストラリア国立フィルム&サウンドアーカイブで写真および映像資料の確認を行った。戦争記念館では、多数の写真を収蔵していることを確認し、平成24年度は戦後の東京の様子を伝える写真141点を購入した。フィルム&サウンドアーカイブでは、戦後の映像を閲覧し、一部は購入可能の状態であることを確認した。しかしながら、両館ともに未だ公開されていない映像も数多く存在するため、今後も継続的に調査を続けていく必要がある。

IV 啓発広報等事業

1 広報活動

(1) 広報資料の作成及び発送

平成24年度は、全国の都道府県教育委員会、全国の市町村教育委員会、小・中学校・高等学校、都道府県遺族会、老人クラブ連合会、類似施設、観光旅行者等に対し、ポスター、パンフレット等を送付し、当館の周知を図った。

また、当館の活動を学校に随時伝える広報誌「昭和館だより」を5月に小学校（関東、中部の一部）と中学校（東北、関東、中部地方）、高等学校（北海道、東北、関東、中部）等に、25年2月に、全国の小・中学校、高等学校へ送付した。

(2) 広報と掲示及び掲載

当館の事業内容のPR及び特別企画展の案内を行うため、都営新宿線、窓上ポスターを掲示した。また、九段下駅4番出口近くに新たな電飾看板を掲示した。公共交通（東京メトロ、都営地下鉄、JR）や新聞に無料広告掲示した。

また、複数のガイドブック、千代田区区報等に当館の紹介記事を掲載して来館案内を実施した。

その他にも、巡回特別企画展の際には、地方新聞に広告を掲載、ローカル放送にてスポットCMを放送した。

(3) 子ども霞ヶ関見学デー

文部科学省主催で開催している「子ども霞ヶ関見学デー」の厚生労働省会場に社会・援護局の「66年前の夏を体験してみよう」とのタイトルで、昭和館及びしょうけい館が出張展示を行った。

昭和館では、「貸出キット」及び雑誌資料・音響資料等を出展した。

- ・開催期間 平成24年8月8日（水）～9日（木）
- ・会場 厚生労働省 講堂
- ・来場者数 631人

(4) 第11回昭和館見学作文コンクール

昭和館を見学した小中学生及び巡回特別企画展を見学した小中学生を対象に、「第11回昭和館見学作文コンクール」を実施した。7校の小学校6年生と、個人2名(小1、小2)の合計261作品の応募があった。

審査の結果、埼玉県越谷市立宮本小学校6年生の山崎彩香さんの作品が厚生労働大臣賞に(別掲)、群馬県高崎市立鼻高小学校6年生の狩野玲さんの作品が昭和館館長賞に選ばれた。

(5) 第5回昭和館高校生ポスターコンクール

高校生を対象に、昭和館に対する周知と理解を広め、多くの方の来館及びホーム・ページの閲覧を得ることを目的として「第5回昭和館高校生ポスターコンクール」を実施した。全国の高等学校にチラシを発送する等して募集したところ、合計205作品の応募があった。

審査の結果、富山県富山第一高等学校 和田昂士さんの作品が、最優秀賞に(作品は別掲)、優秀賞に8作品(作品は別掲)、佳作に26作品が選ばれた。



作文コンクール



ポスターコンクール

2 『昭和のくらし研究』の刊行

昭和館の設立趣旨である「戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝える」事業の一環として、紀要『昭和のくらし研究』第11号を平成25年3月に刊行した。(平成14年度から年1回刊行)

目次は次の通りである。

『昭和館のくらし研究』第11号 目次

口 絵

特集 街の姿と人びとの生活を変えた建物疎開

神奈川県下の建物疎開・・・・・・・・神奈川県立公文書館 中根 賢

資料紹介 『帝都の於ける建物疎開事業の概要』

・・・・・・・・昭和館図書情報部 藤川 和史

資料紹介 昭和館学芸部で収蔵する建物疎開関連資料

・・・・・・・・昭和館学芸部

中原淳一がデザインした洋服を作る

—『平凡』昭和29年(1954)11月号「ファッションショウ」

・・・・・・・・昭和館学芸部 橋口佳緒理

戦時教育と音楽

—歌に見る戦時と社会・・・・明治大学文学部兼任講師 伊勢 弘志



昭和のくらし研究第11号

3 展示資料の貸出

- 「東京の緑をつくった偉人たち」
 - ・開催期間 前期：平成24年7月2日～9月26日
後期：平成24年12月1日～12月27日
 - ・会場 日比谷公園内 緑と水の市民カレッジ3階 みどりのiプラザ
 - ・貸出資料 写真画像2点

- 平和図書展示コーナー「戦時下の生活～手記・日記から読む」
 - ・開催期間 平成24年7月24日～8月26日
 - ・会場 新宿区立中央図書館
 - ・貸出資料 写真画像6点

- 第一生命110周年記念特別企画 「第一生命のあゆみ展」
 - ・開催期間 平成24年7月17日～22日
 - ・会場 第一生命館（日比谷）
 - ・貸出資料 写真画像8点

- せたがや平和資料室「特別展」※① 「地域巡回展」※②
 - ・開催期間 ① 平成24年8月1日～31日
② 平成24年9月1日～10月26日
 - ・会場 ① せたがや平和資料室 教育センター1階
② 烏山区民センター他、計4か所
 - ・貸出資料 写真画像3点

- しょうけい館企画展「軍医が語る戦時救護」
 - ・開催期間 平成24年7月25日～9月23日
 - ・会場 しょうけい館1階 企画展示コーナー
 - ・貸出資料 写真画像3点

- 狛江市平和都市宣言30周年記念事業 パネル展示
 - ・開催期間 平成24年8月26日
 - ・会場 狛江市中央公民館
 - ・貸出資料 写真画像8点

- 憲政記念館特別展「昭和、その動乱の時代－議会政治の危機から再生へ－」
 - ・開催期間 平成24年11月8日～30日

- ・会 場 憲政記念館
- ・貸出資料 写真画像 12点

○ 三菱一号館美術館企画展「丸の内・近代ビジネスマンのくらし展」

- ・開催期間 平成24年11月6日～平成25年5月26日
- ・会 場 三菱一号館美術館 歴史資料室
- ・貸出資料 音源 1点

上記のほか、テレビ・ラジオ番組、教科書副読本、雑誌など製作のための貸出を行った。

4 昭和館運営専門委員会の開催

昭和館の事業計画の策定、事業の運営等に当たっては、開館以来「昭和館運営専門委員会」を年2回開催し、同委員会の意見を踏まえ、事業の充実推進を図っている。

昭和館運営専門委員会 委員名簿

(平成25年3月31日現在。50音順、敬称略)

委員長	宮 脇 岑 生	(元国立国会図書館副館長)
委員	赤 木 完 爾	(慶應義塾大学教授)
〃	石 橋 昌 雄	(板橋区立板橋第十小学校校長)
〃	上 野 憲 示	(文星芸術大学学長)
〃	加 納 正 弘	(元厚生省大臣官房審議官)
〃	北 原 進	(立正大学名誉教授)
〃	鈴 木 淳	(東京大学准教授)
〃	松 井 かおる	(江戸東京たてもの園学芸員)

5 昭和館運営有識者会議の開催

昭和館の運営について、幅広い視野からの意見を得ながら、公正かつ中立的な運営を確保するため、平成15年4月から厚生労働省社会・援護局に「昭和館運営有識者会議」を設置し、これまでに12回にわたり委員会を開催し、昭和館運営事業の計画概要の意見交換を行っている。

昭和館運営有識者会議委員会 委員名簿

(平成25年3月31日現在。順不同・敬称略)

委員長	坂 卷 熙	(淑徳大学名誉教授)
委員	佐 藤 俊 一	(豊島区立千川中学校教諭)
〃	波多野 澄 雄	(筑波大学附属図書館長)
〃	南 砂	(読売新聞社編成局編集委員)
〃	岸 本 葉 子	(エッセイスト)
〃	池 田 維	(公益財団法人交流協会顧問)
〃	國 松 善 次	(一般財団法人滋賀県遺族会顧問)
〃	多 田 宏	(一般社団法人シルバーサービス振興会理事長)

6 インターンシップ

飯田橋公共職業安定所（ハローワーク飯田橋）からの依頼により、高校生の職業意識の形成を目的とする「ジュニア・インターンシップ（就業体験）」を実施し、8月28日（火）～31日（金）まで、東洋高等学校（東京都千代田区）の生徒1名、11月13日（火）～15日（木）まで、東京都立新島高等学校（東京都新島村）の生徒1名を受入れ、職員の指導の下、当館の業務を体験させた。

7 小・中学生用展示案内DVDの配布

小・中学校等の社会科見学及び修学旅行等の機会を据え、来館促進を一層図るため、当館の事業内容をわかりやすく説明した展示案内DVD、を見学予定の希望校に配布しており、児童・生徒の皆さんに来館前に予備知識をつけていただいている。



展示案内DVD

8 関係施設連携会議の開催

関係施設連携会議は、戦後強制抑留者に係る問題に関する特別措置法第13条第1項の規定に基づき、平成23年8月に閣議決定された「強制抑留の実態調査等に関する基本的な方針」に盛り込まれた「戦中・戦後の国民生活上の労苦に関する資料の収集・展示を行う昭和館等の施設間の適切な連携を図る」ことを目的とし、昭和館、しょうけい館及び平和祈念展示資料館の3館によって、平成24年度から開催、更なる連携を図ることとしている。

V 特別企画展等の開催及び概要

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を後世に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

1 特別企画展

「帰還への想い～銃後の願いと千人針～」

戦時中、出征する人々に贈られた千人針や日の丸寄せ書き。それらの品には、家族や身近な人々の無事を祈る気持ちが込められていた。

また、無事を祈って陰膳を供えたり、職場や町内会等では武運長久祈願や壮行会も開かれて華々しく見送られた。しかし、戦争が激しくなっていくにつれて、千人針や日の丸を用意することも困難になり、次第に壮行会の開催も困難になっていった。

本展では、出征に関する実物資料や手記等を通して、銃後のさまざまな祈りの形や、人々の想いを紹介した。

開催期間：平成24年7月28日（土）～8月26日（日）

会 場：昭和館3階 特別企画展会場

展示構成

- I 前史
- II 戦時下の祈りの形
 - 1 出征
 - 2 離れた家族への想い
 - 3 無事の帰還とお礼参り
- III 戦争末期の祈りと暮らし
 - 1 召集の拡大
 - 2 切迫する銃後の生活
 - 3 無言の帰還
- IV 終戦、そして帰還



来場者数：7,941人（約294人／1日）

イベント

1 「学芸員による展示解説」

期 日：平成24年7月30日（土）8月20日（土）

会 場：特別企画展会場

参加者数：58人

2 「戦中・戦後の体験を伝える会」

期 日：平成24年8月7日（日）

会 場：1階ニュースシアター会場

参加者数：116人

2 特別企画展

「生誕100周年・没後30周年記念

中原淳一の生きた戦中・戦後～少女像にこめた夢と憧れ～

中原淳一は大正2年（1913）に生まれ、昭和58年（1983）に没した。昭和を代表する画家でありファッションデザイナーである。雑誌「少女の友」の表紙絵や附録などを手がけ、一躍女性たちに人気の画家となった。戦中は、淳一のイラストによる慰問はがきが多く製作され、戦地の兵士たちの心を慰めたが、その西洋的なイラストが軍部からにらまれ、「少女の友」に掲載されなくなっていった。

戦後すぐの21年8月に「ソレイユ」を創刊し、物資が不足している中で生活を豊かにする方法を掲載して、世の女性達に夢と希望をあたえ、復興の原動力になった。生誕100年と没後30年を記念し、本展では、淳一の著作権を所持する「株式会社ひまわりや」の協力を得て、これまであまり紹介されることがなかった。戦中の活動にもスポットをあて、彼の業績を紹介した。

開催期間：平成25年3月16日（土）～5月12日（日）

会 場：昭和館3階 特別企画展会場

展示構成

I プロローグ

1. 生い立ち
2. 人形作家としてデビュー
3. 『少女の友』挿し絵画家として

II 迫り来る戦火

1. 「ヒマワリ」開展
2. 『少女の友』への掲載中止
3. 海軍への召集

テーマ展示 戦中の服装

テーマ展示 戦地への慰問品

III 新たな構想

1. ヒマワリ社の再出発
2. 物資不足の工夫と心づかい
3. 『ソレイユ』と『ひまわり』創刊
4. 様々な活動

テーマ展示 戦後の服装

来場者数：23,467人
(約469人/1日)

イベント

1 ミニ講演会

中原芙蓉氏（中原淳一長女）による講演会を行う

期 日：平成25年4月13日（土）14:00～15:00

会 場：1階ニュースシアター

参加者数：151人

2 花見イベント

紙芝居、大道芸、昭和の遊び等

期 日：平成25年4月6日（土）～4月7日（日）

会 場：2階ひろば

参加者数：592人

3 展示解説

学芸員による展示解説

期 日：3月30日（土）・4月20日（土）

会 場：3階 特別企画展会場

参加者数：76人




3 「昭和の日」記念イベントの開催

「昭和の日（4月29日）を中心として、記念イベントを開催した。

1	「常設展示室」の無料入場 期 日：昭和の日の4月29日（木） 来場者数：449人
2	「昭和の遊び」の催し（特別企画展のイベントとして） 水ヨーヨー釣り、メンコやけん玉、紙芝居の実演など。 期 日：平成22年5月3日（月）～5日（水） 会 場：2階広場 来場者数：2,021人
3	「懐かしのニュースシアター」特別上映 （オーラルヒストリー「言問橋 <small>ことといばし</small> のたもとで～狩野光男 <small>かのうてるお</small> さんの 体験談～」を併映） 期 日：平成22年4月28日（土）～5月4日（金） 会 場：1階ニュースシアター 来場者数：2,181人

4 写真展

「東京オリンピック開催年の日本 ―変わりゆく昭和の情景―」

開催期間：平成24年10月6日（土）～12月9日（日）	
会 場：昭和館2階広場	
展示内容：オリンピック一色となった昭和39年は、その準備が進められる中で、町の景観が様変わりした所も多くあった。本展では、失われていく生活の情景や変わらないまま残った町の景観など、この年の日本の様子を紹介した。	
来場者数：15,106人 (約219人/1日)	

5 写真展

「桜 さくら サクラ」

開催期間：平成25年3月20日（水）～4月14日（日）

会場：昭和館2階広場

展示内容：戦前から戦後の各地の桜やお花見をする人びとの様子を、当館が収蔵している絵はがきや写真、桜や春をテーマとしたSPレコードの展示と、その音源を会場で紹介した。

来場者数：10,114人
(約440人/1日)



6 紙芝居定期上演会

平成24年3月より開催予定の特別企画展「昭和の紙芝居～戦中・戦後の娯楽と教育～」に向け、当館が収集した紙芝居を紙芝居師の梅田佳声氏ほか
が演じる会を開催した。

上演会は平成22年6月より毎月第4日曜日に、平成24年5月からは奇
数月第4日曜日に開催し、その模様はVTRに記録され、特別企画展の映像
として活用する予定である。

なお、平成24年度の紙芝居定期上演会の入場者数は、710人であつ
た。

7 資料公開コーナー

昭和館が収蔵する映像資料・写真資料（5階）・図書資料（4階）を多くの来館者に利用していただくきっかけになることを目的に、1階ロビーの一角にコーナーを設けて、資料を随時公開している。

平成24年度に紹介した資料の各テーマと期間は、以下の通りである。

回数	テーマ	期間
第37回	大震災で被災したSPレコード	平成24年 3月 6日（火） ～ 5月 6日（日）
第38回	65歳になった新憲法～日本の民主化ポスター	平成24年 5月 8日（火） ～ 7月 8日（日）
第39回	第4回「昭和館高校生ポスターコンクール」入賞作品展	平成24年 7月10日（火） ～ 8月 5日（日）
第40回	カラー写真で見る終戦直後の日本	平成24年 8月 7日（火） ～ 10月 5日（金）
第41回	湧き立つオリンピックベルリン大会	平成24年 10月 6日（土） ～ 12月27日（木）
第42回	戦前から戦後の保育雑誌～85歳になった「キンダーブック」～	平成25年 1月 5日（土） ～ 3月 3日（日）
第43回	子どもも楽しむSPレコード	平成25年 3月 5日（火） ～ 5月12日（日）

注：回数は平成19年度に開始以来の通算回数

参 考

1 平成24年度利用者実績

(単位：人)

	常設展示室	映像・音響室	図書室	ニュースシアター	特別企画展等	合計	特別企画展等内訳
平成24年 4月	3,096	1,862	1,160	14,757	32,545	53,420	4/1(3/17~) 写真展期間 4/1(3/17~) 特別企画展期間
5月	2,671	1,531	1,163	6,823	2,361	14,549	5/27 ~ 5/6 特別企画展期間 紙芝居定期上演会
6月	2,640	1,595	1,044	5,186	0	10,465	
7月	2,339	1,382	1,128	5,312	599	10,760	7/22 紙芝居定期上演会 7/28~ 特別企画展期間
8月	5,391	2,752	1,796	11,101	7,444	28,484	~ 8/26 特別企画展期間
9月	2,215	1,454	1,040	5,689	3,347	13,745	9/22 ~9/30 富山県巡回特別企画展期間 9/23 紙芝居定期上演会
10月	3,075	1,803	1,198	6,779	4,346	17,201	10/6~ 写真展期間
11月	7,046	4,404	2,393	8,157	8,599	30,599	11/10 ~11/18 写真展期間 11/25 京都府巡回特別企画展 紙芝居定期上演会
12月	7,300	4,840	3,132	7,112	4,749	27,133	~12/24 写真展期間
平成25年 1月	5,526	4,437	2,703	6,657	111	19,434	1/27 紙芝居定期上演会
2月	8,656	5,746	3,378	8,499	0	26,279	
3月	3,316	1,286	849	13,257	19,467	38,175	3/16~3/31 (5/12) 特別企画展期間 3/20~3/31 (4/14) 写真展期間 3/24 紙芝居定期上演会
合計	53,271	33,092	20,984	99,329	83,568	290,244	

2 平成24年度常設展示室入場者数

総数	区分	種別	人数	割合(%)
53,271人	有料 48,065人	小・中学生	24,419人	45.8
		高・大学生	2,644人	5.0
		一般	21,002人	39.4
	無料 5,206人	小・中学生 (親子割引)	770人	1.4
		視察者等	2,777人	5.2
		心身障害者	1,283人	2.4
		未就学児	376人	0.7

(参考) 団体またはグループによる来館学校数

総数	区分	学校数	割合(%)
537校	小学校	325校	60.5
	中学校	156校	29.0
	高校	13校	2.4
	専門学校	12校	2.2
	大学	31校	5.8

3 来館団体御芳名

(敬称略)

月 日	団 体 名	人 数
5月25日	埼玉県立三郷北高等学校2年生	100名
6月12日	府中市立府中第十小学校6年生	130名
6月20日	春日部市立武里南小学校6年生	91名
6月28日	宮崎県門川町立門川中学校2年生	181名
8月15日	京都府全国戦没者追悼式参列遺族団	153名
10月24日	静岡県藤枝市立大州小学校6年生	92名
10月31日	東大和市立第一小学校6年生	92名
11月1日	世田谷区立京西小学校4年生	101名
"	町田市立鶴川第三小学校6年生	97名
11月2日	綾瀬市立北の台小学校6年生	92名
11月6日	神奈川県桐蔭学園小学部6年生	116名
"	青森県十和田市立甲東中学校2年生	101名
11月9日	北区立王子小学校6年生	102名
11月11日	専修大学文学部歴史学科	130名
11月14日	練馬区立大泉第六小学校6年生	95名
11月16日	越谷市立宮本小学校6年生	110名
"	柏市増尾西小学校6年生	105名
11月20日	江東区立第五砂町小学校6年生	108名
"	さいたま市立仲本小学校6年生	112名
11月21日	白井市立桜台小学校6年生	90名
11月22日	小金井市立小金井第一小学校6年生	107名
11月24日	小田原法人会南足柄・山北支部	90名
11月27日	千葉市立小中台小学校6年生	143名
"	西東京市立栄小学校6年生	98名
11月29日	足立区立東伊興小学校6年生	105名
11月30日	調布市立第三小学校6年生	125名
"	八王子市立みなみ野君田小学校6年生	158名
12月 4日	新座市立野火止小学校6年生	108名
"	狛江市立緑野小学校6年生	104名
"	杉並区立桃井第五小学校6年生	109名
12月 5日	草加市立小山小学校6年生	120名
12月 6日	朝霞市立朝霞第二小学校6年生	129名
"	神奈川県カリタス小学校6年生	106名
12月 7日	朝霞市立朝霞第五小学校6年生	172名
"	春日部市立幸松小学校6年生	97名
"	中央区立佃中学校2年生	99名
12月11日	江戸川区立小松川西小学校6年生	98名
"	足立区立弥生小学校6年生	100名
"	稲城市立稲城第一小学校6年生	93名
12月14日	江戸川区立東葛西小学校6年生	135名
12月18日	船橋市立薬田台南小学校6年生	110名
"	練馬区立大泉第二小学校6年生	139名
"	板橋区立金沢小学校6年生	127名

月 日	団 体 名	人 数
12月18日	船橋市立法典小学校6年生	166名
12月20日	千葉県旭市立中央小学校6年生	98名
"	練馬区立上石神井小学校6年生	108名
12月21日	江戸川区立枝川小学校6年生	135名
1月17日	東久留米市立第九小学校6年生	91名
1月18日	藤沢市立鶴沼小学校6年生	126名
"	世田谷区立等々力小学校6年生	105名
"	川越市立山田小学校6年生	113名
"	江戸川区立第二葛西小学校6年生	139名
1月23日	狭山市立富士見小学校6年生	133名
"	調布市立若葉小学校6年生	107名
1月24日	習志野市立実籾小学校6年生	107名
1月25日	八潮市立大原小学校6年生	122名
1月29日	板橋区立北野小学校6年生	140名
"	町田市立小山田南小学校6年生	104名
"	越谷市立陽光中学校2年生	157名
1月31日	川崎市立千代ヶ丘小学校6年生	118名
"	羽村市立武蔵野小学校6年生	102名
"	吉川市立関小学校6年生	122名
2月 1日	八街市立八街東小学校6年生	123名
2月 5日	習志野市立大久保東小学校6年生	131名
"	板橋区立前野小学校6年生	95名
"	袖ヶ浦市立昭和小学校6年生	113名
2月 7日	江東区立小名木川小学校6年生	92名
2月 8日	佐倉市立根郷小学校6年生	104名
"	市川市立塩焼小学校6年生	146名
2月13日	横浜市立末吉小学校6年生	146名
"	横浜市立洋光台第一小学校6年生	113名
2月14日	川崎市立東生田小学校6年生	96名
"	横浜市立西寺尾第二小学校6年生	103名
"	墨田区立両国小学校6年生	99名
2月15日	八王子市立みなみ野小学校6年生	109名
"	川崎市立栗木台小学校6年生	116名
"	神奈川県鎌倉市私立清泉小学校6年生	114名
2月19日	町田市立小川小学校6年生	113名
"	品川区立小中一貫校日野学園小学校6年生	112名
2月20日	大田区立池上小学校6年生	92名
"	浦安市立北部小学校6年生	142名
2月21日	横浜市立新鶴見小学校6年生	121名
"	横浜市立笹野台小学校6年生	105名
2月22日	杉並区立杉並第二小学校6年生	94名

※紙面の都合により、90名以上で来館した団体のみを掲載しております。

4 第11回昭和館見学作文コンクール・厚生労働大臣賞受賞作品

「あたりまえのことに感謝して」

埼玉県越谷市立宮本小学校 6年 山崎 彩香

私が昭和館に行って、見て1番心に残ったのは、自分と同じ子どもたちのことでした。小さい時から戦争で、悪い事をしたわけでもないのに、疎開して空腹と家族と別れて暮らすさびしさにたえながら生活していました。自分だったらきっとそんな生活たえられなかったと思います。そして、戦争中の子どもたちは強いと思うと同時に、心の中は暗かっただろうと思いました。だから、私は今自分に家族がいること、お腹いっぱいご飯が食べられること、それがあたりまえにできることに感謝しようと思いました。また、戦争の起きている国、それに苦しむ子どもたちがいる、それを忘れてはいけないと強く思いました。

もう一つ心に残ったこと。人々の玉音放送と出征の時の複雑な気持ちです。出征のときのぼりを立てて、お国のために戦えることを「万歳、万歳」とよろこびましたが、きっと心の中は、自分の兄や弟、夫や父が死んでしまうかもしれないという不安でいっぱいだったはずです。そして、玉音放送の時の人々の心の中は、戦争が終わったよろこびがあるのに、戦争に負けてしまった悲しみがあって。

この時代は、思ったことを言えば「非国民」と言われてしまいます。言いたいことも言えないなんて、私には考えられませんでした。今は、言葉などの自由が法律で守られています。私は昭和館に行ってそれが幸せなんだということに気づきました。

私が昭和館に行って思ったことは、今自分があたりまえだと思ってやっていることは、戦争中の日本や戦争をしている国では難しいということです。だから私は、あたりまえだと思っていることをあたりまえと思わず感謝していこうと思います。

5 第5回昭和館高校生ポスターコンクール入賞作品の紹介 <入賞作品（優秀賞以上）>



最優秀賞
富山第一高等学校
和田 昂士
「昭和の家族」



優秀賞
愛知県立豊丘高等学校
島田 夏帆
「闇市」



優秀賞
岐阜県立多治見北高等学校
榊原 吉恵
「再開」



優秀賞
福岡県立折尾高等学校
入江 真衣
「昭和の生活」



優秀賞
京都市立銅駝美術工芸高等学校
長尾 琢人
「町的笑み」



優秀賞
小松原女子高等学校
植村 水琴
「夕焼け」



優秀賞
徳島県立池田高等学校
古郷 明日香
「昭和時代の洗濯風景」



優秀賞
岐阜県立岐阜総合学園高等学校
今枝 弘樹
「昭和の町並み」



優秀賞
岐阜県立岐阜総合学園高等学校
宮川 茉奈美
「昭和ならではの笑顔」

6 施設概要

設立趣旨

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示事業、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧事業並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供事業等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

昭和館建設の経緯

昭和54年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館（仮称）」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本厚生大臣に提出された。

これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもと、「戦没者遺児記念館（仮称）」建設の検討が進められた。

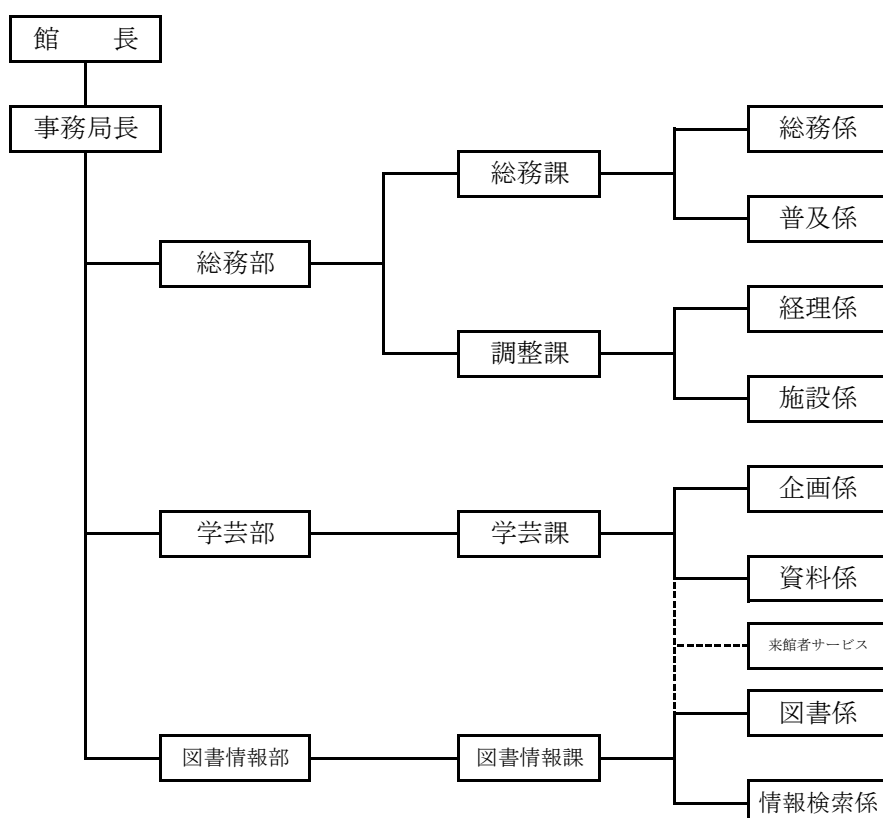
平成5年に、「戦没者追悼平和祈念館（仮称）」として厚生省（当時）予算に建設費が計上された。その後、有識者等からさまざまなご意見をいただき、平成10年12月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成11年3月末に開館した。

なお、一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

施 設

面 積	敷地面積	2,138㎡			
	延床面積	8,514.11㎡			
構造種別	S造（鉄骨造）一部SRC造（鉄骨鉄筋コンクリート造）				
階数	床面積（㎡）	主な用途	収容人員（人）	避難施設	備 考
R階	206.04	機械室		避難階段	
7階	792.05	常設展示室（入口）	135	避難階段	戦中の国民生活
6階	795.37	常設展示室（出口）	142	避難階段	戦後の国民生活
5階	797.61	映像・音響室	63	避難階段	情報検索
4階	798.03	図書室 書庫	52	避難階段	図書閲覧 図書収蔵庫
3階	799.6	研修室・会議室	120	避難階段	特別企画展時は会場に使用
2階	718.61	広場		避難階	（臨時出入口）
1階	1288.42	資料公開コーナー エントランスロビー ニュースシアター 受付・総合案内・事務室	69 34	避難階	昭和館出入口
B1階	1011.42	資料収蔵庫 防災センター 機械式駐車場		避難階段	実物・図書資料収蔵（低温管理）
B2階	1306.96	機械室 機械式駐車場		避難階段	
合計	8514.11		615		

組 織



7 平成24年度寄贈者御芳名

本年度に、資料をご寄贈くださいました方のお名前を記して御礼といたします。

実物資料寄贈者

[団体]

都道府県	寄贈者名
東京都	利根会

実物資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
山形県	丹野洋子
東京都	二見富美子
〃	古屋好以
〃	石黒裕朗
〃	小菅一彦
〃	前田けい子
〃	安西眩喜
〃	浦野照一
〃	藤倉京子
〃	田村博子
〃	朝田誠一
〃	伊東繁
〃	渡邊一弘
〃	石野正明
〃	平本温彦
〃	大西久江
〃	鹿島啓子
〃	柳田徳蔵
〃	大西路男
〃	菅原徹朗
〃	森幸雄
〃	田口美枝子
〃	西岡秀子
〃	高橋静江
〃	光森一誠
〃	合田之久
〃	川口實
〃	川村芳子
〃	花村睦子
〃	安岡由佳梨
〃	宮田満裕
〃	荒井美乃
〃	足助勝
〃	松本和子
〃	斉藤禹子
神奈川県	高橋千世子

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
神奈川県	成田史代
〃	小森恵己子
〃	小幡清子
〃	北村佳子
〃	間庭俊子
〃	谷口滋
〃	浮田檀子
〃	渡辺脩江
〃	石原近和
〃	小川文子
千葉県	門脇頼枝
〃	福田敏子
〃	中嶋香百合
〃	島村洋子
〃	友野志万子
〃	小林和子
埼玉県	浅井恒郎
〃	熊谷ルミ子
栃木県	中田和夫
長野県	伊東祐満
富山県	樽井弘和
〃	浦山義一
〃	長澤フジ子
〃	梅島邦夫
〃	石井ふみ子
〃	倉田淳
愛知県	渡辺尚
京都府	磯川友子
〃	矢谷修治
〃	加納眞
〃	樋口國康
〃	武田喜代江
〃	松尾弘
大阪府	小寺幸生
福岡県	秋山聡

図書資料寄贈者

[団体]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
北海道	釧路市立博物館
〃	札幌市文化資料室
青森県	青森県近代文学館
〃	青森県立郷土館
岩手県	盛岡市先人記念館
宮城県	仙台市歴史民俗資料館
〃	東北歴史博物館
秋田県	秋田県立博物館
山形県	米沢市上杉博物館
福島県	白河市歴史民俗資料館
〃	福島県立博物館
〃	福島県歴史資料館
茨城県	茨城県立歴史館
栃木県	栃木県立なす風土記の丘資料館
埼玉県	川越市立博物館
〃	埼玉県平和資料館
〃	鉄道博物館
〃	日本大学広報部大学史編纂課
〃	武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会
〃	蕨市立歴史民俗資料館
千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館
〃	国立歴史民俗博物館
〃	女性の日記から学ぶ会
〃	城西国際大学水田美術館
〃	野田市郷土博物館
〃	船橋市郷土資料館
東京都	J C I I フォトサロン
〃	N H K 放送博物館
〃	板橋区教育委員会生涯学習課文化財係
〃	板橋区立郷土資料館
〃	北区まちづくり公社
〃	出光美術館
〃	大田区立郷土博物館
〃	お札と切手の博物館
〃	お茶の水女子大学文教育学部人間社会科学科博物館学術研究
〃	海軍兵学校第75期会事務局
〃	株式会社藝術出版社
〃	株式会社芸術新聞社 出版部
〃	株式会社玄光社
〃	株式会社紀文食品
〃	株式会社吉川弘文館
〃	北区飛鳥山博物館
〃	北区教育委員会生涯学習推進課
〃	宮内庁書陵部
〃	日本科学技術振興財団科学技術館事業部
〃	多摩市文化振興財団パルテノン多摩

都道府県	寄贈者名
東京都	國學院大学大学院日本史学専攻大学院
〃	国立公文書館アジア歴史資料センター
〃	東日本鉄道文化財団
〃	海原会
〃	偕行会
〃	家具の博物館
〃	古賀政男音楽文化振興財団古賀政男音楽博物館
〃	水交會
〃	政治経済研究所東京大空襲・戦災資料センター
〃	中国残留孤児援護基金
〃	東京都人権啓発センター
〃	東京都歴史文化財団東京都江戸東京博物館
〃	野球殿堂博物館
〃	日本郷友連盟
〃	日本ユネスコ協会世界遺産・国際教育グループ
〃	衆議院憲政記念館
〃	しょうけい館
〃	昭和女子大学光葉博物館
〃	杉並中央幼稚園
〃	杉並区立郷土博物館
〃	すみだ郷土文化資料館
〃	税理士法人レガシィ
〃	世田谷区立郷土資料館
〃	全国疎開学童連絡協議会
〃	総務省大臣官房総務課管理室
〃	台東区教育委員会
〃	台東区立下町風俗資料館
〃	千代田区立千代田図書館
〃	たばこと塩の博物館
〃	玉川大学教育博物館
〃	中央史学会
〃	調布市郷土博物館
〃	逓信総合博物館
〃	東京家政学院生活文化博物館
〃	デナリパブリッシング株式会社
〃	東京都公文書館
〃	東京都三多摩公立博物館協議会
〃	東京都写真美術館
〃	東京都図書館協会
〃	東京都博物館協議会
〃	道具学会事務局
〃	豊島区立郷土資料館
〃	新島村博物館
〃	日本カメラ博物館
〃	練馬区立石神井公園ふるさと文化館
〃	八王子市総合政策部市史編さん室

都道府県	寄贈者名
東京都	文化環境研究所
〃	文京ふるさと歴史館
〃	平和祈念事業特別基金
〃	防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室
〃	町田市立自由民権資料館
〃	満鉄会
〃	港区立港郷土資料館
〃	民音音楽博物館（民主音楽協会）
〃	明治大学博物館
〃	目黒区めぐろ歴史資料館
〃	靖國神社社務所
〃	吉田秀雄記念事業財団
神奈川県	JICA海外移住資料館
〃	大磯町郷土資料館
〃	小田原市郷土文化館
〃	小田原城天守閣
〃	神奈川近代文学館
〃	神奈川県立歴史博物館
〃	川崎市市民ミュージアム
〃	馬事文化財団 馬の博物館
〃	戦時下の小田原地方を記録する会
〃	平塚市博物館
〃	横須賀市総務部総務課
〃	横浜みなと博物館
〃	横浜市史資料室
〃	横浜都市発展記念館
〃	廣島第一懸女有朋会四十五期追悼の会
〃	明治大学平和教育登戸研究所資料館
新潟県	新潟市歴史博物館
富山県	富山市郷土博物館
〃	魚津市立図書館市史編纂室
石川県	金沢大学歴史言語文化学系
〃	石川県立美術館
福井県	福井県立若狭歴史民俗資料館
〃	福井県立歴史博物館
長野県	旧制高等学校記念館
〃	松本市立博物館
〃	飯田市美術博物館
〃	長野県立歴史館
静岡県	島田市博物館
〃	浜松市博物館
〃	沼津市歴史民俗資料館
愛知県	愛知県陶磁資料館
〃	安城市歴史博物館
〃	瀬戸蔵ミュージアム
〃	半田市立博物館
〃	名古屋市博物館
〃	衣の民俗館

都道府県	寄贈者名
京都府	京都国立博物館
〃	立命館大学国際平和ミュージアム
〃	久御山町遺族会
〃	京都府遺族会
大阪府	往生院民具供養館
〃	大阪歴史博物館
〃	堺市立平和と人権資料館(フェニックス・ミュージアム)
兵庫県	明石市立文化博物館
〃	赤穂市立歴史博物館
〃	甲南大学人間科学研究所
〃	神戸女子大学史学会
奈良県	奈良県立民俗博物館
和歌山県	和歌山県立紀伊風土記の丘
〃	和歌山市教育委員会
〃	和歌山県立博物館
〃	和歌山市立博物館
鳥取県	鳥取市歴史博物館 やまびこ館
岡山県	津山郷土博物館
広島県	広島平和文化センター
〃	呉市海事歴史科学館
〃	広島県立歴史博物館
〃	日本はきもの博物館・日本玩具博物館
山口県	下関市立考古博物館
〃	周南市美術博物館
香川県	高松市市民文化センター平和記念室
愛媛県	愛媛県歴史文化博物館
〃	坂の上の雲ミュージアム
高知県	土佐山内家宝物資料館
〃	高知市立自由民権記念館
福岡県	福岡市総合図書館文学・文書課
〃	福岡市博物館
〃	北九州市立自然史・歴史博物館
〃	太宰府市文化ふれあい館
佐賀県	佐賀県立佐賀城本丸歴史館
〃	有田町歴史民俗資料館
長崎県	長崎県文化観光物産局文化振興課
大分県	大分市歴史資料館
〃	大分県立先哲資料館
宮崎県	みやざき歴史文化館
〃	宮崎県総合博物館
鹿児島県	鹿児島県歴史資料センター 黎明館
〃	尚古集成館
〃	南九州市教育委員会文化財課(ミュージアム知覧)
沖縄県	沖縄県平和祈念資料館
〃	沖縄美ら島財団

図書資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
山形県	丹野洋子
茨城県	吉久保満男
栃木県	中田和夫
埼玉県	秋田芳子
〃	佐藤洋子
〃	野村眞己
千葉県	岩崎剛二
〃	門脇頼枝
〃	川田久仁子
〃	鈴木陽夫
〃	戸高一成
〃	山田三郎
〃	領塚正浩
東京都	麻木正美
〃	阿部明子
〃	安西眩喜
〃	安西東作
〃	池田和生
〃	伊藤満理夫
〃	井上孝
〃	町田乾郎
〃	牛田守彦
〃	梅澤利江
〃	大西路男
〃	岡崎信幸
〃	鹿島啓子

都道府県	寄贈者名
東京都	合田久之
〃	斉藤百合子
〃	杉田朋美
〃	高橋澄夫
〃	高橋昌裕
〃	田口美枝子
〃	田村博子
〃	津守勉
〃	露木実
〃	寺嶋武
〃	西岡秀子
〃	野村和子
〃	浜中進
〃	藤倉京子
〃	古橋研一
〃	宮田満裕
〃	持田晃
〃	山口光弘
〃	米澤かおる
神奈川県	新井勝紘
〃	池田拓司
〃	井上弘
〃	小川文子
〃	北村桂子
〃	高橋千世子
〃	千葉理

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
神奈川県	角井桂子
〃	中村光夫
〃	成田史代
〃	花村愛子
〃	間庭俊子
〃	山口正雄
〃	山田由美子
〃	荻野靖子
富山県	樽井弘和
〃	野中桂子
〃	藤田和子
愛知県	渡辺尚
三重県	高木一
滋賀県	新谷正明
〃	田村幸雄
京都府	白井芳雄
京都府	加納眞
大阪府	吉田真知子
広島県	中尾裕子
香川県	田尾定信
熊本県	笠原慶喜
〃	上村直己
〃	田嶋日出志
大分県	木村貞雄
アメリカ	小玉剛二

映像・音響資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
埼玉県	矢島桂一
東京都	細木善一
〃	塩田敦也
〃	浅沼康成
〃	井上智博
〃	鹿島啓子

都道府県	寄贈者名
東京都	持田晃
〃	富田有子
〃	杉田朋美
〃	近藤昭男
〃	荒井美乃
〃	薄光治

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
神奈川県	浮田檀子
愛知県	山下里水
京都府	永井幸子
広島県	曾我部光
大分県	井上宣郎
熊本県	古閑定雄

映像・音響資料寄贈者

[団体]

都道府県	寄贈者名
東京都	利根会
神奈川県	神奈川県立図書館

昭和館館報 第14号 (平成24年度)

平成25年10月発行

編集発行

昭和館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

電話 03 (3222) 2577